

在住外国人向け防災行動計画(マイ・タイムライン)検討ツール普及事業(講習会モデル自治体①:仙台市)

実施報告書

2022年度 災害時言語ボランティア&外国人防災リーダー合同
防災行動計画(マイ・タイムライン)研修会



主催：公益財団法人 仙台観光国際協会 (SenTIA)
協力：仙台市減災推進課
報告：一般財団法人 自治体国際化協会(CLAIR)

1. 目 的

災害時に在住外国人の方が日本人と同じような行動をとることは難しく、外国人のための地域防災体制の強化が必要であることから、災害時外国人支援のキーパーソンとなる災害時言語ボランティア及びせんだい外国人防災リーダーを対象として、水害を中心とした災害実績やマイ・タイムラインについて学んでいただき、同じように地域に暮らす外国人住民たちのサポートや、地域防災に貢献する役割を担うためのスキルアップを図る。

2. 実施日時・会場

日 時：2022年8月6日（土）11:00～12:30

会 場：仙台多文化共生センター研修室A（仙台国際センター会議棟 1F）

3. 開催体制

主催：仙台観光国際協会(SenTIA)（募集事務・司会進行・ワーク時の各グループの補助）

協力：仙台市減災推進課（講師・ワーク時の進行及び各グループの補助）

オブザーバー：自治体国際化協会(CLAIR)、河川情報センター(FRICS)、仙台市交流企画課

4. 参加者

人 数：災害時言語ボランティア、外国人防災リーダー 22名

国 籍：日本、中国、フィリピン、イタリア、インドネシア、
モンゴル、フランス、韓国、ベトナム

グループ：1グループ5～6名程度で4グループ編成

（参加者が多くの気付きを得られるよう、グループ内の国籍はなるべく被らないように配置した）

5. 実施内容・スケジュール

(1) 挨拶：公益財団法人 仙台観光国際協会

(2) 講 義：「過去の水害と備えについて」

講師 仙台市減災推進課

(3) ワーク：「マイ・タイムラインをつくってみよう」

講師 仙台市減災推進課

(4) 意見交換：研修の感想、外国人住民への防災啓発について

(5) 事務連絡

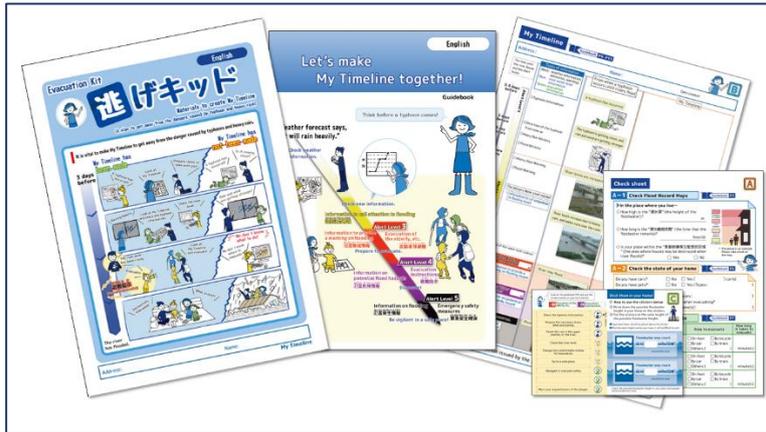
6. 研修概要

《ワークで使用したツール》

・多言語版在住外国人向け防災行動計画（マイ・タイムライン）検討ツール

※やさしい日本語版および各参加者の母国語版を配布して、使いやすい方で作成するよう案内

(<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/tagengo/mtl.html>)



※イメージ

・重ねるハザードマップ

(ハザードマップポータルサイト <https://disaportal.gsi.go.jp/>)

※ガイドブックp.3のQRコードから、参加者各自のスマートフォン等を使ってアクセスしていただいた。また、参加者向けに施設のWi-FiのID・パスワードを掲示し、使用可能にした。



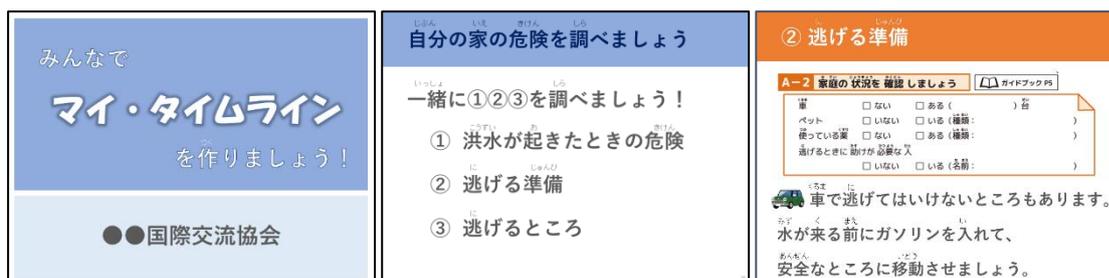
・仙台防災ハザードマップ（水害・土砂災害）

(<http://www.city.sendai.jp/anzensuishin/kurashi/enzen/saigaitaisaku/hazardmap.html>)

※スマートフォン等からの確認が難しい場合には、紙媒体のハザードマップを使用できるように予め参加者に配布した。



・講習会用パワーポイント資料



※イメージ

※マイ・タイムラインのガイドブックを中心としたスクリーン投影用資料。ワークにおける作業時には、常に画面に今何をする時間なのかを示して、ついていけない参加者が出ないように配慮。

《進 行》

時間	所要	内容	担当・備考
-10:50		留学生交流委員ミーティング	
10:45-11:00	15	受付	
11:00-11:05	5	開会 挨拶・趣旨説明、オブザーバーご紹介	SenTIA
11:05-11:30	25	【講義】過去の水害と備えについて	仙台市減災推進課
11:30-12:00	30	【ワーク】マイ・タイムラインをつくってみよう	
12:00-12:25	25	【意見交換】感想、外国人住民への防災啓発	SenTIA
12:25-12:30	5	講評 事務連絡、終了	CLAIR、FRICS

>各実施内容のねらい

【全般的な配慮事項】

- ・聞き続け易い時間は30分

外国人の方にとって日本語を30分以上聞き続けるのはかなりの集中力を要するため、今回は講義・ワーク・意見交換とそれぞれ30分程度に設定し、外国人参加者が集中力を保ち易いよう配慮した。同様に、予定時間をオーバーすることもないように努めた。

【講義】過去の水害と備えについて

- ・日本の災害等に関する基礎知識の提供

在住外国人の方々は日本の災害や避難についての基礎知識を有していないことも多いため、マイ・タイムライン作成のワークに先立って、日本における災害や防災についての講義を行った。

・研修冒頭で「本日のゴール」を確認

何のために今日集まっているのか冒頭で確認することで、内容をじぶんごと化させるための工夫。台風・大雨等による水害が起こる前にマイ・タイムラインを作っておくことで、逃げ遅れて命を落としてしまうことが無いようにする等。

・今日考えるのは地震ではなく水害

最初に水害に対する対応について考える場であることを明示しておかなければ、地震時の対応と混同され進行が思うようにいかない可能性がある。水害は気象情報発表から実際に起こるまでの時間(リードタイム)があるから事前に準備を行う意義があることなども含めて、目的と前提条件をきちんと共有した。

【ワーク】マイ・タイムラインをつくってみよう

・外国人の災害情報収集には言語の壁がある

実際に災害が起きてからどのような行動をとるべきか考えようとした場合、情報収集や避難の準備に時間がかかり逃げ遅れが発生する可能性が高まる。日本語を母国語としない方々にとっては更にそのリスクが高くなることから、前もって発災時の防災行動計画を検討しておくことが重要である。

【意見交換】感想、外国人住民への防災啓発

・他の参加者からの情報も自分のものにできる

他の参加者と意見交換の時間を設けることにより、一人では気づかなかった避難の備えやタイミング、避難場所の選定や逃げ方を知ることができる。

・アウトプットによる学んだ内容の定着

研修内で学んだ内容を他の参加者に伝える、というアウトプット作業を経ることで、改めて自分のマイ・タイムラインについて抜けや漏れがないかの確認になるとともに、内容が定着する。

・顔の見える関係づくりの支援

外国人向け防災事業に関わる支援者は、実災害時にも連携して対応にあたる可能性が高いことから、グループ内で顔を合わせて話をする機会を設けることで、災害時に重要な顔の見える関係づくりに繋がる。

▶現場での工夫

- ・つい最近起こった大雨被害の映像を流し、水害は身近なことであるとの認識を促した。
- ・ハザードマップの確認は、ガイドブック記載のQRコードに各自のスマートフォン等を使用してアクセスしたため、参加者のためにWi-FiのID・パスワードを掲示した。
- ・自分の住所がわからない人は、現在地ボタンで現在地の災害リスクを調べることとした。
- ・ワーク中に今使用すべき資料を常に画面に映し出し、参加者が迷わないようにした。
- ・ワーク中は、仙台市職員および仙台観光国際協会職員が補助者として各グループに1人ずつ入ることで、受講者のマイ・タイムライン作成を補助し、円滑な進行に役立っていた。
※補助者が確保できない場合には、参加定員を少なくするなど、講師が進行管理まで行える人数に調整するとよい。

7. 講習会開催にあたっての工夫

・受講対象者の選定

受講者が今後、各自のコミュニティ内などでマイ・タイムライン作成の支援ができる人材となるように、外国人向け地域防災のキーパーソンである、「災害時言語ボランティア」および「外国人防災リーダー」を対象を設定。本研修を受講することでツールの使い方を学び、

今後は教える側に立つことを期待して実施した。

参加者の確保の観点からも、「外国人防災リーダー」のような既存の枠組みの中で、参加を促す方が集まりやすい。なお、募集にあたっては、研修を受けることで「こういうことが身に着く」というメリットを示すことと、実施前にリマインドをかけることも大切。

・各グループを多国籍化

今回の参加者は多国籍であったことから、グループ内で意見交換を行った際などに新たな気付きを得られるよう、各グループの参加者国籍が重ならないようにした。

※ただし、この配置は参加者全員に講師の日本語を理解できる程度の日本語力があることが前提。

・ツールはやさしい日本語版と母国語版を両方配布

参加者が多国籍で、かつ日本語力についてもばらつきがあったことから、「在住外国人向け防災行動計画（マイ・タイムライン）検討ツール」のやさしい日本語版と各参加者の母国語版を配布して、使いやすい方で作成するよう案内。

結果的に、やさしい日本語版を使う参加者と外国語版を使う参加者の両方が見られた

8. 実施結果

令和3年度も同様の対象者向けに在住外国人向けマイ・タイムライン検討ツールを使って研修会を実施して下さった仙台市だが、昨年度実施時は外国人向けに作成途中のツールを配布したことで、用語の意味が分からずスマートフォン等で検索する参加者が発生し、ワークの進行の妨げとなった。また情報量が多く、何をしたらよいのかわかりにくかった。

その際の参加者からの意見及びその後の検討会での意見を踏まえて作成した、やさしい日本語版と母国語版の両方を配布するように運用変更したところ、ワーク中に躓く参加者が減り、最終的な成果物として様々な言語でのマイ・タイムラインが作成された。

また、ワークではスマートフォンや紙のハザードマップを使って、自宅等の災害リスクを確認する部分で進行が遅れてしまいがちであったが、各グループ1名程度の補助者を配置することでスムーズな進行が実現されていた。なお、補助者となる方には事前にハザードマップの確認方法やガイドブック内の進行、マイ・タイムラインの記入例等について、把握しておいていただくことが望ましい。

意見交換では、自己紹介や各自のマイ・タイムラインを共有し、参加者同士の交流も活発に行われ、顔の見える関係をつくることができた。

9. 参加者の声

(1) 【講義】過去の水害と備えについて

(1) - ①新たに知ったことや、気づいたこと

・最新情報（8/3頃の山形県の水害）を提示してもらったので、自然災害はいつでも、どこでも、誰にでも起こりうることに改めて気づきました。

・災害の様子を明確に画像で見せてもらったので、想像しやすかったです。災害発生した場合を考え、前もってどのタイミングでどこへ避難するか決めておくのは良いと感じました。

(1) - ②もっと知りたいと思ったことなど

・参加者が住んでいる仙台市もしくはその周辺で起きた過去の水害について、歴史的な流れを踏まえて教えていただけたら、当事者の意識の強化につながると思いました。

・避難指示で避難した人たちは、避難所で具体的にどんな生活をするのか、また、避難所の基礎情報が知りたいです。それをイメージできれば、自分の非常用物資の見直しが出来ると思いました。

・ワークの前に、避難に関する内容をもう少し教えて欲しかったです。

(2) 「【ワーク】マイ・タイムラインを作ってみよう」

(2) - ①新たに知ったことや、気づいたこと

・マイ・タイムラインは、自分の避難行動を具体化すること。今まで避難行動について曖昧に考えていたので、とても勉強になりました。

・マイ・タイムラインを作ってみたことで、いつ、どんな準備をするかなどを具体的に知ることが出来たので、災害が発生する前に慌てずに準備を進められると思います。

・ハザードマップのインターネット版があり、とても詳細に作成されていて、素晴らしい。

・ハザードマップの使い方を学べたので、今後災害が発生する前に活用したいです。

・水害を避けるため、家の周りの環境を確認する手段として、ウェブ（「重ねるハザードマップ」）の検索方法を学びました。これを利用して、今回だけではなく、将来引っ越し先を選ぶ際に、環境の安全性にも配慮できると思いました。

・インターネットで現在地に近いところのハザードマップや、避難場所、水位等が分かり、早めに安全な場所に移動ができることを知りました。

・昔は避難指示が来た時に、自分とどう関係があるかわかりませんでした。安全な地域に住んでいる自分は無理に避難する必要がないことを知り、一安心しました。

・私の住んでいる場所は危険な場所なので、もし本当に台風・豪雨が来る場合、早めに準備・避難したほうが良いと気づくことができました。

・自分自身の居住地域が水害被害に遭う可能性があるということを知りました。おそらく、その危険性に気付かない、あるいは気にしていない人が大半であるため、身近なところから啓発していく必要があると思いました。

・水害を避けるため、大雨が降り始める時点じゃなく、一週間くらい前にはもう準備を始めなければならないことに気付きました。

・実際に災害発生した場合、避難が避難指示後で間に合うのか不安に感じたので、避難場所が決まったら、1度そこを訪ねておくと思いしました。例えば公民館を訪問し、想像よりも寒いなどの新たな気づきがあれば、前もって持ち物が変わるかもしれません。何分歩けば良いとか、どの道を通ればより安全かなど、具体的に分かります。

・ディスカッションの時間に講演者の方から災害アラートの仕組みについて教えてもらうことができました。水害の舞台裏の話を知っているような感覚で、普段の皆さんのご尽力が垣間見える貴重な時間でした。

(2) - ②もっと知りたいと思ったことなど

・同じ班の参加者から、「避難所は申し込みが必要ですか」、「避難所での避難は有料ですか」という質問が出ました。日本人は普段の生活の中で自然と習得できる基本的な情報も、テレビ離れと言われている若い世代の外国人にはなかなか浸透していないと感じています。テレ

ビヤラジオのニュースを確認しない若者たちへの情報の伝え方について、何か工夫されているか知りたいと思いました。

・台風や豪雨は今まで経験したことがありませんが、地震は何回も経験しています。毎回不安なので、地震の時にどんな行動を取るべきかも、知りたいと思いました。

・グループワーク（意見交換）の冒頭において、メンバー間の交流があまり活発ではありませんでした。各自が「仙台の好きなところ」を発表しつつ自己紹介するなどのアクティビティでアイスブレイクをしてから、メンバーで話し合う時間が取られると嬉しいです。その後、各自がマイ・タイムラインをグループ内で発表することで交流機会も増えるし、水害を避けるために自分が気づいていないやるべきことを発見するきっかけにもなると思いました。

(2) - ③ワークで使った資料について気づいたこと

・多数の言語に対応していて素晴らしいと思います。

・資料（ガイドブック）を冊子にすることで「〇ページ」と説明する際に分かりやすかった。

・仙台ハザードマップについて英語版などがあればとの意見を耳にし、なるほどと思いました。思い返してみると、私も来日した初年度に日本語版のハザードマップを見て何が何なのか全然分かりませんでした。

・資料には避難指示を待たないでも良いとあり、その判断をするのは自分なんだなと思いました。そして、留まった方が良いかの判断も自分。となれば自分で集められる情報頼りなので、外国人の場合、言葉の通じる相手がいるか、いないかは大きいと感じました。

(3) 研修全体を通じてのご意見やご感想

・講師の話がとても丁寧でわかりやすかったです。

・水害が発生した際の、ハザードマップの見方とマイ・タイムラインの作り方を教えていただきありがとうございます。そのほかの災害についての対策などもぜひ今後取り入れていただけたらと思います。

・東日本大震災を経験し、自分では、災害について日頃より意識しているつもりでしたが、知らないことが多かったので、研修に今後も参加していきます。

・様々な国籍や文化を背景に持つ方達と同じテーブルで協議ができて、母国での緊急時の情報量の不足、発信力について、知ることができました。危機意識と情報共有の大切さを感じ、この内容を知人にも広めながら、自分ができることを発信、対応をしていきたいと思います。

・現在、地元が水害の危険にさらされており、今回の研修は特に我が事として受講しました。避難グッズを用意する、避難所の位置を確認する、といったことは漠然とは知っていましたが、実際にタイムラインを作成してみたことで、どの段階でいかに行動すべきかを具体的にイメージできました。

・台風、避難、避難指示などのキーワードは、なるべく日本語のまま覚えて頂くことができれば、携帯・テレビ・ラジオから発信される避難情報を受け取りやすくなると思います。

・水害等が起こった際に、時間軸と行動が明確になっているので、家の中の見えるところで家族と共有して、緊急時でも慌てない行動をしていきたいです。

・マイ・タイムラインはとても良いツールなので、仙台在住の外国籍の方に伝えたいです。

1.0. 記録写真



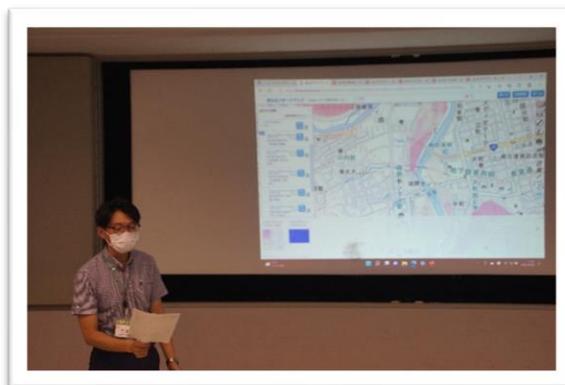
➤主催者による開会挨拶



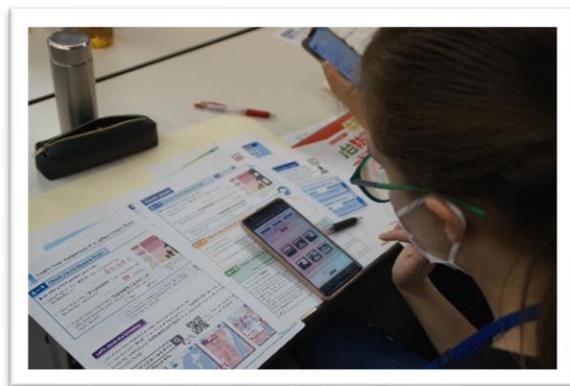
➤オブザーバー紹介の様子



➤仙台における過去の水害実績に関する講義の様子



➤ワーク中の災害リスクの確認では、スクリーンに「重ねるハザードマップ」を映し出し操作方法を説明



➤自身のスマートフォンで「重ねるハザードマップ」を確認する参加者



➤スクリーンには常に今やるべき作業が写し出されており、円滑な進行に役立っていた



➤補助者は参加者のワーク進捗状況を確認し、疑問点などがあれば対応を行っていた



➤意見交換の時間には、他の参加者から共有される情報によって新たな気づきがあった